

# 園だより



駿河台大学第一幼稚園  
6月



梅雨入りの前に、園庭には夏野菜が植えられています。ミニトマト、オクラ、ナス、ピーマン、ポップコーン等です。今年の職員室組は、難しいと言われるパプリカに挑戦。パプリカという表示を見ると大人も子どもも「♪パプリカ 花が咲いたら～♪」と歌う様子が見られて、そうして心を動かすきっかけになることは、育てる甲斐があるなと感じました。パプリカのダンスを踊って見せてくれたクラスもありました。

庭に、初めてオジギソウを植えてみたところ、環境の変化やその情報をどうやって得ていくか、知った時にどうするかは様々でした。知ったことを広報活動する、繰返し触って面白さを感じる、触り方を教えるなどです。

耳でその情報を聞いた子どものほとんどは、「面白い葉っぱがある」「動くんだって」という想像がつかないことに不安を思いつけるのか行こうとしない姿がありました。怖いと思う物や想像がつかないものに突進しないことも危機管理能力！？の育ちの一步かもしれません。情報は、自分で吟味しなければならない時代ですので大事ですね。(オジギソウではありますが・・・)

最初に触った子どもが喜びの声をあげる様子から、何だろうとなり、あっという間に多くの子どもたちの知るどころとなりました。でも、まだ気づかず、触っていない子どももいます。自分の気づきの瞬間や友達を通しての共感の瞬間など自発的なところに意味がありますが、担任を通しての学級全体の中での情報で関心をもつこともいいかもしれません。(オジギソウを探そう！)

好奇心は、全ての「知るの基本・源」になると思います。かつて知能開発研究所として使用していた教具を出して、預かり保育の場所でゆっくり自由に遊びながら試行錯誤するおもちゃとして使用し始めました。知ること、考えることを面白がる土台作りの日々です。